

## 令和4年度第2回社会教育委員会議兼中央公民館運営審議会 会議録

### 1 日時

令和5年3月10日（金）午後1時30分から午後2時45分まで

### 2 場所

碧南市文化会館 5階 研修室1

### 3 出席者及び欠席者

- (1) 出席者 会長 加藤 榮治、副会長 清水 ヨシエ、伊藤 利和、榊原 健、竹中 瑛智、名倉 伸介、山田 龍司、多田 宏明
- (2) 欠席者 竹原 邦夫
- (3) 事務局職員 教育長 生田 弘幸、教育部長 岡崎 康浩、文化財課長兼藤井達吉 現代美術館副館長 松野 盛高、スポーツ課長 加藤 和彦、海浜水族館長 森 徹、生涯学習課長 鈴木 善三、生涯学習課課長補佐 山田 光則、生涯学習課生涯学習係主事 榊原 康史

### 4 傍聴者 なし

### 5 議題

- (1) 令和4年度社会教育事業報告・令和5年度社会教育事業計画（主要事業）について
- (2) その他
  - ア 令和4年度社会教育委員活動報告
  - イ 令和5年度予定

### 6 議事の要旨

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議題

ア 令和4年度社会教育事業報告・令和5年度社会教育事業計画（主要事業）について

事務局が会議資料に基づき、各課より令和4年度社会教育事業報告及び令和5年度社会教育事業計画について説明した。その後、審議した結果、了承された。

#### <主な意見・質疑>

【A委員】 歴史的価値のある建築物が取り壊される事例があった。その付近にその先祖

が運営していた渡船関係の碑と観光協会の説明看板が立てられている。文化財課は承知しているか。

【文化財課長】 建物については、歴史的建造物調査を行うことで記録に残し、渡船関係の史料などをご寄付いただきました。観光協会の説明看板の作成にあたっては、文化財課も関わりをもっています。

【A委員】 無我苑について、この素晴らしい施設を市内外を問わず、多くの方々に知ってほしい。どのようなアプローチを行っているか。

【文化財課長】 ホームページ、SNS及び広報の他に、2年前からオンラインによる哲学講座を開始し、講師の知名度も高いおかげもあり、県外からの参加もある。このような事業により、施設のPRに寄与していると期待している。

【A委員】 伊藤証信、清沢満之、梅原猛等、碧南に関わりの深い哲学者のより一層のPRをしてほしい。

【文化財課長】 現在、無我苑内瞑想回廊において伊藤証信コーナー、梅原猛コーナーを設け啓発中であるが、より一層のPRに努めたい。

【B委員】 水族館及び美術館の出張講座は学校現場としてはありがたかった。引き続きお願いしたい。

【B委員】 図書館の電子書籍貸し出しの今後の展開を詳細にお聞きしたい。

【生涯学習課長】 昨年度から始まった新たなサービスであるが、ジャンルの多い絵本及び料理等の実用的なものの需要が高い。反面、ベストセラー本等は貸出許可が出るのが遅い傾向があり、バリエーションが乏しい。今後、司書と相談しながら充実を図りたい。

【A委員】 図書館友の会にプロジェクターを貸出してほしい

【生涯学習課長】 協力団体へのプロジェクター貸し出しについては図書館に連絡済みであり、担当部署を通じて申し出していただきたい。

【C委員】 部活動の地域移行について伺いたい。今後の展望はどうか。

【スポーツ課長】 年末に国のガイドラインが提示された。次は県、そして市のガイドライン作成となる。子どもの立場からすれば、専門性の高い指導が望ましいが、自治体間の地域差の問題等課題が山積であり、細部を煮詰められない状態にある。ただ、国は学校教育の枠から外した移行を考えているが、進むべき明確な方向が不明の中、碧南市においては学校教育の枠組

み中である「外部講委嘱事業」と社会教育の枠組みの中の「部活動支援事業」の両輪で進めていきたい。

- 【教育長】 これについては地域差の問題は深刻であり、苦慮するところであるが、子どもたちにしわ寄せがいかないよう努力することをお約束する。
- 【D委員】 子どもたちの間に部活動参加機会における格差があってはならないと考える。国の方針と必ずしも合致させる必要はないのではないか。現在の施策を拡充させるという手段も有効と考える。
- 【会長】 現在の施策拡充については、市が実現してくれると期待している。
- 【教育長】 次年度予算の確保に努め、かなり良い実績が期待できそうなところである。
- 【D委員】 部活スポーツの種目拡充についてお聞きしたい。
- 【スポーツ課長】 まずは、現行の部活動種目の運営安定を第一としたい。部活は、スポーツ系だけでなく文化系も存在する。まずは各種目の外部講師2名を確保することに努めている。
- 【教育長】 外部講師については、すでに65名を確保しており、近い目標を100名としている。少子化の影響もあり、一校でのチーム編成が困難な種目が発生している。大規模校と小規模校とでは、生徒が選択可能な種目に倍近くの格差があり、これも是正したい。また、学校の枠を超えた「チーム碧南」の構想もあり、生徒が選択できる種目の拡充を実現したい。これは、中小体育連盟大会への参加も可能となる。
- 【E委員】 資料内の「中学校部活動支援事業」の種目に「野球」がないがどうか。
- 【スポーツ課長】 現在、少年野球育成連盟、軟式野球連盟及びスポーツ課の代表間で意見交換中であり、7月の切り替わり時期までに調整完了予定である。
- 【F委員】 この会の趣旨からは少し外れるが、いじめ・不登校の実態についてお聞きしたい。小中学校間の連携はどうか。
- 【教育長】 不登校児童生徒数は、全国的に増加中。碧南は、全国平均を下回るが、増加中である。原因をコロナとしてよいかも不明。ただ、不登校であっても家庭内に引きこもることは好ましい状態といえない。そのため次年度、文化会館4階に不登校児受け入れのための「ほっぷくらぶ（仮）」を設置し、校長OB及びスクールアシスタントにて運営を行う予定である。そこに通う子供が再び学校に戻っていくことが理想だが、とにかく「ひきこもり」の発生を抑制すること

を目指したい。

【G委員】 子どもたちは、それぞれに悩みを抱えている。大人の一人として、彼らの力になりたいと切に願う。また、碧南市は子育ての場としては、素晴らしい環境であり、様々なイベントが体験できる。今後も積極的に参加するので、素晴らしい企画をより一層充実していただきたく思う。

(4) その他

令和4年度社会教育委員活動報告、令和5年度予定及び委員選出依頼について  
事務局より説明

午後2時45分閉会